

在香港フィリピン人家事労働者の 余暇活動についての一考察

—アイデンティティとの関係を中心に—

合 田 美 穂

Reinforcing National Identity among Philippine Maids Through Leisure Activities in Hong Kong

GODA Miho

Abstract : Philippine maids have been working in Hong Kong since the 1970s.

Hong Kong offers one of the highest wages for domestic helpers in the Asia-Pacific region, and thus many Filipinas come to work in Hong Kong.

Nowadays, there are 142,500 Filipinas working in Hong Kong as domestic helpers. On Sundays and public holidays, they do not have to work, and can participate in various social and religious activities. This study examines how Philippine maids in Hong Kong build their social network and reinforce their national and cultural identities through their leisure activities.

要旨：香港におけるフィリピン人家事労働者の歴史は1970年後半にまで遡ることができる。1980年代以降、フィリピン経済の悪化により、フィリピン国内における就業率は減少し、フィリピンは国を挙げて、国民を海外へ送り出すことによって、外貨を稼ぐことを余儀なくされた。香港における家事労働の賃金は、他の国家や地域と比較すると高額であるため、香港を「出稼ぎの地」として選択するフィリピン女性は非常に多い。現在、約14万2千5百人のフィリピン人が香港で家事労働に従事している。香港の労働法令では、海外家事労働者は日曜および祝日には休暇をとる権利があると定められており、フィリピン人家事労働者は、これらの休暇をできる限り利用し、娯楽活動、宗教活動といった様々な活動に参加している。本研究は、こういった余暇時の活動を通して、家事労働に従事するフィリピン女性の故郷とのネットワークの築き方について理解をふかめ、そこから見えてくるフィリピン人女性の国家、地域、民族アイデンティティについて考察したものである。

1. はじめに

香港におけるフィリピン人家事労働者の歴史は1970年後半にまで遡ることができる。1980年代以降、フィリピン経済の悪化により、フィリピン国内における就業率は減少し、フィリピンは国を挙げて、国民を海外へ送り出すことによって、外貨を稼ぐことを余儀なくされた。海外に出た労働者は一家の大黒柱と

なり、家族から頼られ、また、重宝されることになった。香港における家事労働における賃金は、他の国家や地域と比較すると高額であるため、香港を「出稼ぎの地」として選択するフィリピン女性は非常に多い。小ヶ谷によると、アジアの受入国の中でも、外国人家事労働者の標準雇用契約と最低賃金制度が存在すること、外国人家事労働者も労働法による保護を受けられること、そのために、労働組合を含めた結社活動が認められていることなどから、香港は、海外からの移住



学生グループのアンケート調査実施状況

労働者にとって、相対的に労働条件が整っている地域であると述べている¹。こういった諸事情が、香港が外国人家事労働者をひきつける大きな要因となっている。2001年における香港の国勢調査によると、約14万2千5百人のフィリピン人が香港に居住している²。

香港では、海外家事労働者の1ヶ月あたりの法定最低賃金が3,270香港ドル(約47,415円)と定められている³。また、家事労働者は、毎週最低1日は休暇をとる権利が与えられている。(実際には、その休暇は完全な1日ではなく、24時間を下回っている。)1週間に1度の休暇、祝祭日、年休以外にも、家事労働者は労働年数によって、一時帰国のために1週間から2週間にかけて、休暇をとることができるようになっていく⁴。

彼女たちは、故郷とのつながりを保つため、これらの休暇をできる限り利用し、一時帰国を含めて、様々な活動に参加している。本研究では、家事労働に従事するフィリピン女性を対象とし、余暇における諸活動、例えば、彼女たちの、故郷とのネットワークの築き方、余暇における娯楽活動、宗教活動および飲食傾向について、調査を行い、その結果を分析し、彼女たちのアイデンティティを考察した。

本研究で用いた調査方法は以下のものである：

- ①アンケート形式の調査⁵。(アンケート用紙の配布部数は80部、有効回答数は65部である。)
- ②聞き取り⁶。
- ③論文、書籍、雑誌などの参照
- ④政府などの調査報告書の参照

2. フィリピン人家事労働者の故郷と関わり方

家事労働者として香港で働くフィリピン人女性は、フィリピンにいる家族や友人などと、なおも密接に関

係を保っていることが、アンケート調査の結果から確認できた。アンケート調査の結果、回答者65人中、74%が故郷を「故郷を非常に懐かしく思う」と答えている。滞在期間が6年～10年、および10年以上の労働者の場合、「故郷を非常に懐かしく思う」という割合は8割と高く、5年以下の場合は、66%である。香港での滞在年数が長いほど、郷愁の気持ちが強くなる傾向にある。その一方で、回答者65人のうち、約45%が、故郷の家族や友人と1ヶ月のうち「3～5回(1週間に1回程度)連絡を取っている」と答えており、約25%が「9回以上(1週間に2回以上)連絡を取っている」としている。アンケートでは、香港での滞在年数が短いほど、故郷と連絡を取る頻度が高くなっている。故郷との連絡の取り方は、国際電話(8割以上)、手紙やEメールなど(約2割)となっており、費用が多少かかっても、直接「生」の声を聞くことを重視しているようだ。また、回答者うち、大半を占める95%は、フィリピンにおける情報やニュースに常に関心を持っており、日常的に関連情報を入手しようと努力している。フィリピン人家事労働者は、電話や手紙、情報の収集といった方法によって、故郷との「間接的な」接触を頻繁に行なっているのである。

「直接的な」故郷との接触について述べると、回答者うち、62%が「2年に1度帰国」し、36%が「1年に1度帰国する」と回答している。また、滞在年数が長いほど、一時帰国の頻度が高くなる傾向があるが、これは彼女たちの経済的背景と大きく関連しているといえる。帰国には航空機を使用するため、費用はある程度必要となる。また、帰国時には「故郷に錦を飾る」ために、多少無理をしてでも、家族や知人などへの大量の土産を準備する。聞き取りの中で、故郷への贈り物や土産について、以下のような事例がみられる。

メイドは、一時帰国時の前になると、普段は本人でも使わないような高価な日本製の化粧品を大量に買ったり、携帯電話やラジオなどの電気製品を買ったりしています。(雇用主S氏)

一時帰国時に、スーツケースに入りきれないお土産は、事前に船便で送っているようですが、非常に多量で、段ボール箱が数箱に及んだこともありました。(雇用主M氏)

このような出費は、滞在年数が短く、貯蓄が少ない労働者にとっては、一時帰国への大きな負担となって

いる。回答者うち、大半を占める97%は、定期的に金銭や物資を故郷へ送っているため、とりわけ、滞在年数が短い労働者は、なかなかまとまった金額を貯蓄できず、頻繁に一時帰国できないという事情もあるのである。(アンケート設問4-9を参照。)

アンケート調査の結果から、「間接的」或いは「直接的」な方法によって、フィリピン人家事労働者は、異郷の地で働きながら、なおも積極的に故郷とのかかわりを保つ努力をしているということが確認できたが、そういった関わり方は、ハード面(金銭の送金、物資の輸送など)、ソフト面(電話や手紙などを通して近況を知らせたり、相手の状況をたずねたりすることなど)の双方ともに、香港にいるフィリピン人家事労働者の側から主導的に行なわれており、フィリピンの故郷にいる家族や知人の側からの積極的なかかわりは極めて稀である。その理由としては、通信費などの金銭的な負担を、故郷にいる家族にかけたくないことや、多くの家事労働者が住み込みとして働いているために、雇用主が家事労働者の家族や知人からの電話に対して、不快感を示すことなどが考えられるが、最大の理由は、故郷の家族への「思い」であるといえるだろう。大半のフィリピン人家事労働者は、ビジネスや専門的な分野において成功を収めるというような、いわゆる海外発展型の労働者ではない。また、「海外生活にあこがれて」や「海外を体験してみたい」といった興味によるものでもなく、「異郷で収入を得て、故郷にいる家族のための経済的な支柱になること」なのである。そういった背景から、「家族のために働く」彼女たちにとって、故郷の家族は心の支えとなっており、また、家族との間には、一種の相互依頼の関係が構築されているのである。この相互依頼の関係を確認するために、そして、より強固なものにするために、フィリピン家事労働者たちは、積極的に故郷との関わりを保とうとしているのである。彼女たちは、多少金銭的負担がかかったとしても、手紙ではなく、国際電話を利用して家族と連絡を取ることを厭わないのは、こういった「思い」からであろうと容易に推測できる。国際電話に関する聞き取り内容を以下に紹介する：

毎晩、メイドは、自由な時間ができると、すぐにやることは電話。最初は、香港にいる同郷人を相手に、話しているのかと思っていたが、故郷の家族へもよく電話をかけているようです。電話代も安くはないし、こんなに電話代を使って大丈夫



国際電話の勧誘をおこなう電話会社の営業員

なのか、こちらが不安になるほどです。(雇用主 N 氏)

故郷への電話は週に1回程度しているようだけど、SMS(携帯電話のメッセージ機能)なら、毎日のように利用している。ひどい時は、仕事でも携帯を離さず、カチカチとメッセージを打ち続けていることもある。一度、度が過ぎると叱ったことがあるが、自分から電話を取ったら、夢や希望や楽しみがなくなると返された。(M 氏)

香港の雇用契約の規定では、同一の雇用主のもとで、12ヶ月継続して労働した場合、有給休暇を使う権利が与えられる。よって、1年、或いは2年毎に、多くのフィリピン人家事労働者は、その有給休暇を利用して、家族への思いを胸に、一時帰国するケースが多い。彼女たちにとって、この一時帰国は、「直接」故郷と接することのできる貴重な機会でもあり、「故郷に錦を飾る」ための非常に重要な事項でもある。筆者の聞き取りによると、一時帰国はクリスマスを含めた年末年始などに実施されることが多いが、雇用主の事情によって帰国時期の変更を余儀なくされるケースもあり、いつでも自分の都合で好きな時に帰国できるわけではない。聞き取りからも、フィリピン人家事労働者が、一時帰国をいかに重要視しているかがうかがえる例を紹介する：

メイドはカソリックの信者なので、クリスマスは家族と過ごしたい気持ちが強く、いつも、その時期の一時帰国を要求してくる。こちらも年末年始は仕事が休みなので、その時期の帰国は基本的に許可している。(雇用主 M 氏)

メイドが「9月に一時帰国したい」と申し出てきたので断った。共働きなので、その時期に休ま

れると、子供の幼稚園の送迎はだれがするのか、食事の準備はどうなるのかなどといった問題が浮上ってきて、その時期に帰国の許可を与えることはできなかった。それを伝えると不満だったようで、泣き出してしまい、困った。(雇用主 S 氏)

一家で長期の旅行をすることになったので、同じ期間、特別のプレゼントという名目で、航空券と休暇を与えたら、何度も、「クリスマス休暇も取れるのか」と確認してきた。「もちろん、クリスマスにも帰っていい」と言うと、非常に喜んでいった。(雇用主 S 氏)

アンケート調査の結果からも、滞在期間の長さに関わらず、フィリピン人家事労働者は、異郷の地である香港にいて、故郷に対して非常に強い感情を持っていることが確認できたが、香港で居住するフィリピン家事労働者にとって、香港は、強い帰属意識を有する場所ではなく、仕事と収入を得るための場所に過ぎず、彼女たちにとって、最も重要で、かつ、「家」であるのはやはり故郷、フィリピンなのである。彼女たちは、故郷を思うだけではなく、積極的に故郷とのかかわりを保つ努力をしている⁷。以下の章では、フィリピン人家事労働者の余暇活動(娯楽、宗教、飲食活動など)を通して、彼女たちが異郷の地において、どのようにフィリピン人としてのアイデンティティを保持しているのかということについて、理解を深めていく。

3. フィリピン人家事労働者の余暇活動

香港で家事労働者として就労する場合、週1回の休日(主に日曜日)および祝祭日が基本的な休曜日となる。大部分の家事労働者は、休曜日になると、就労している雇用主の家ではなく、屋外で過ごす。よって、香港各地区の公園、広場、ショッピングモールなどは、休日になると、フィリピン人をはじめとする各国の家事労働者であふれかえる。特に、セントラル地区のエンプレス広場一帯は、フィリピン出身者が集中する場所として知られている。

アンケート調査の結果では、フィリピン人家事労働者は、休暇を1人で過ごすことはなく、友人や知人とともに過ごす傾向があるということがわかった。回答者うち、約55%は、「友人・知人と集まる」と答えている。また、4割近くが「教会主催の活動に参加している」と回答し、残りの1割弱が、「フィリピン人家



日曜日のセントラル地区のエンプレス広場

事労働者で組織する労働組合の活動に参加している」と答えている。労働組合が主催する活動について言えば、とりわけ、滞在期間が5年以下の家事労働者は、労働組合についてあまり関心を持っておらず、彼女たちにとっての労働組合とは、仕事に関係する機関でしかなく、彼女たちの文化的なアイデンティティに大きな影響を与えているものではないと考えられる⁸。

休暇における活動の主な目的は、「友人・知人との交流を深めること」と「宗教的活動への参与」であるが、回答者うち、約2割は「娯楽を目的」として、休暇を過ごしている。回答者の年齢と、香港での滞在期間は様々であるが、年齢層ごとに結果をまとめてみた場合でも、結果は各年齢層ともに類似していた。(アンケート設問1-3を参照。)

多くのフィリピン人家事労働者は、休暇時には友人や知人とともに行動を共にする傾向があるが、友人や知人は、同国出身者、厳密に言えば同じ方言を話す同郷人である場合がほとんどである。仕事の性質、使用言語および文化的背景により、彼女たちは香港人の友人を作る機会は極めて少なく、その社交範囲も、同郷人、あるいは同一地区で労働するフィリピン人に限られている。このような環境に身を置く彼女たちにとって、郷愁や孤独感が沸き起こることは不思議ではない。よって、彼女たちは休暇時に、友人や知人と集まって交流すること以外に、互いに故郷に関する情報を交換したりすることによって、故郷や祖国への帰属意識を維持し、郷愁や孤独感によるホームシックを回避しているのである。

また、大部分のフィリピン人家事労働者はキリスト教系宗教(カソリックおよびその宗派、プロテスタントおよびその宗派)の信者であるため、教会での礼拝や関連する活動への参加も、彼女たちの休日における重要な活動の一つとなっている。午前中に個人で礼拝

に参加し、午後、知人や友人と他の場所でおちあうとするものもいれば、午後も継続して、フィリピン人がメインとなっている教会活動に参加するものもいる。

フィリピン人家事労働者は、友人や知人とともに休暇を過ごすため、活動の性質も、友人や知人との交流、そして、娯楽がメインとなっている。セントラル地区での参与観察や、聞き取りからも、フィリピン人家事労働者の多くが、出費につながるショッピングなどを控え、ピクニックさながら、地面にシートを広げて、場所を陣取り、飲食や雑談をしたり、トランプなどの遊戯に興じたり、フィリピンの書籍や新聞を読んだりしているケースが多い。また、特別な行事がある日や記念には、郊外に出向き、バーベキューを行ったり、歌や民族舞踊に興じたりしている。アンケート調査で、教会での活動を選択したものは、布教や、香港に着たばかりの家事労働者への指導など、教会によるグループ活動やボランティア活動を行っている。聞き取りの中から、休暇の活動に関するものを紹介する：

うちのメイドに、「この前の休み、どこかへ行った？」と質問することがありますが、どこか特別な場所へ行ったわけでもなく、同郷の友達と情報交換をしたり雑談などをしたりすることが多いようです。宗教活動は、何か特別な儀式や行事がある時のみ、1日中参加しているようですが、大抵は、友達との集まりに時間を費やしているようです。(雇用主 M 氏)

家の用事で、どうしても日曜日に人手が必要になり、余分に賃金を支払うという条件で、休日返上を依頼することたまにあります。快諾してくれることはあまりないですね。断られることもあるし、了承する時は、しぶしぶといった感じです。お金よりも、友達に会える休日のほうがいいのでしょう。(雇用主 M 氏)

毎日家事や子育てなどに追われているので、休みの時を非常に心待ちにしているようです。前日なんかは、ファッションショーのように、翌日に来て行く服を鏡の前で試着したりしてたし、夜遅くまで起きて、翌日持参するための料理の下準備など、いろいろとやっていますね。(雇用主 S 氏)

休日に物品の販売をしているかどうかは、わからないけれど、いらぬものを友達とお互いに譲り合ったり、読み終えた自国の雑誌や新聞を、交換し合ったりしているようです。(雇用主 L 氏)

フィリピンのことが新聞やニュースで報道され



シートを広げて集うフィリピン人家事労働者

たら、教えてあげるのですが、既に知っていることが多いです。休日に友達から聞いたりした情報だと思います。(雇用主 N 氏)

また、上述した諸活動の他に、少数ではあるが、副業で販売活動をしている家事労働者も存在する。販売活動の中で最も多い商品は、廉価による日用品や食品であり、更には、ネイルアートなどの美容サービスを行なっているものもいる。利用者は香港人ではなく、フィリピン人に限られ、とりわけ顔見知りのフィリピン人家事労働者の利用が多い。

また、フィリピン人家事労働者は、故郷に家族を残し、単身で労働しているため、ホームシックにかかりやすい。また、住み込みで働いている場合が多いため、実際には、労働は8時間以上におよぶこともある上に、雇用主の要求によって、過剰な労働を強いられることもある。また、プライベートが保障されていないという状況から、ストレスもたまりやすい。他にも、「使用人」という立場から、しばしば、「二等公民」のように扱われたりして、自尊心を傷つけられることもある。こういった具体例を、聞き取りの中から紹介する：

聞いたことがあるんですけど、メイドに極力お金をかけないようにしている日本人の雇用主がいて、そのメイドは子供の残飯しか食べさせてもらえなかったり、部屋もあてがわれず、風呂場で寝起きをさせられたりしているそうです。雇用主の家族全員が入浴を終えてから、そこで寝ることになるので、ひどい時には夜中を過ぎることもあるみたいです。(雇用主 L 氏)

他の家の話ですけど、家族全員とメイドで外出した時に、高級なレストランで食事する場合は、

メイドと一緒に食事を取らせず、外で待たせておいて、後で簡単にファーストフード店で食事させて節約する、といった話を聞きました。なるほど、と思いましたね。(雇用主L氏)

以前、雇用主が経営するレストランで皿洗いをさせられたり(法律では家事労働以外の仕事をすることは禁止されている)、雇用主の知り合いの家に派遣されて、その家事とかを手伝わされたりしているメイドの話も聞いたことがあります。(法律では雇用主以外の人のための労働は禁止されている。)うちも、人の家に招待された時に、メイドを連れて行って、その家の手伝いをさせることもあるんですが、そういう時は、法律違反っぽいことをやってるわけなので、メイドの気持ちを考慮し、その分のお小遣いを渡して、不満がたまらないように気を遣っています。(雇用主M氏)

以上のような状況においても、フィリピン人家事労働者は、「使用人」という立場から、異議を唱えにくい。異議を唱えることによる解雇を恐れて、不満を表明せず、雇用主の命令に従うケースがほとんどである。上述の聞き取りの中にもあるように、雇用主が、気持ちを考慮してくれる状況にある場合はまだしも、そうでない場合は、かなりのストレスが発生するだろう。そういった状況の下で、唯一、自由を得られる時が休日であり、同様の思いを抱く同郷人と悩みを相談しあったり、バーベキューやダンスなどのイベントでストレスを発散したり、教会での礼拝で心をおちつかせたりできるのが、休日の時だけなのである。そこでは、「二等公民」としてではなく、同郷人たちと対等な立場で付き合い合えることができる。そして、これらの諸活動を通して、フィリピン人家事労働者は異郷の地に



ネイルアートで副収入を得るフィリピン人家事労働者

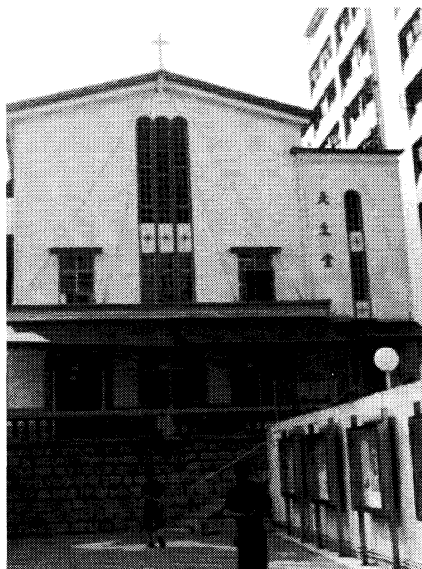
いながらも、自己のアイデンティティを確立しているのである。

4. フィリピン人家事労働者の宗教活動

フィリピンはスペイン植民地時代の影響を受け、現在でもなお、国民の約85%がカソリックおよびその宗派の信者である。その他はプロテスタントやイスラム教などの宗教、アニミズムなどの諸宗教、および無宗教などに分類される。本研究では、フィリピン家事労働者を対象として、彼女たちの宗教活動を通して、宗教に対する価値観や故郷への関わり方を考察した。

アンケートの回答者のうち、大半を占める95%がキリスト教系の信者であったが、その中の77%が「香港に来る以前から、日曜の礼拝に参加していた」と答え、同様の比率で「香港に来てからも同様に日曜の礼拝を欠かしていない」と回答している。また、回答者うち、83%は「香港に来る以前から、日曜の教会諸活動に参加していた」と答えている。そして、71%が、香港での教会との関わり方(例えば礼拝の回数や、感情輸入の度合い)も「香港に来る以前と変わらない」と答えている。これらの数字から、フィリピン人家事労働者は、香港に来てからも、なおも礼拝、信仰活動を継続し、参加の度合いにも変化は見られないということが確認できた。

筆者の指導の下で本アンケート調査を実施した香港中文大学の学生グループのメンバーは、英国植民地統治の影響によってキリスト教系宗教が普及している香港に居住しているということもあって、アンケート実施前から、既にこの結果を予期していた。学生たちは、「宗教は世界の多くの人々にとって、非常に重要な精神的糧であり、人々のよりどころでもあり、基礎をなしているものである」といい、フィリピン人家事労働者たちの信仰に対する望みや要求は、香港における宗教の諸活動への参加を維持させるだけの原動力に繋がっていると考えていた。宗教の信仰は、フィリピン人家事労働者にとって、心の安らぎや自己アイデンティティの確立にも大きく作用しているといえよう。彼女たちが、異郷の地で受けたストレスや不安は、宗教への依頼によって緩和される部分が多い。キリスト教が提唱する「キリスト教精神」は、奉仕、忍耐、懺悔が基本であるため、長期の労働においてストレスを感じているフィリピン人家事労働者にとって、共感できる部分がある。そして、同時に、彼女たちは、キリスト教の教えに従い、自らがキリスト教の模範とな



多くのフィリピン家事労働者が礼拝を行なうカソリック教会

るように努力すると同時に、キリスト教への帰属意識を強めていると考えられる。

上述の結果とは別に、以下に非常に興味深い調査結果を紹介したい。実際には、キリスト教系宗教信者のうち、72%が「香港およびフィリピンにおける宗教活動への参加目的およびその活動内容は同様ではない」と回答しており、そのうちの約80%が「その差異は大きい」と考えている¹⁰⁾。宗教活動への参加の目的については、キリスト教系宗教信者の68%が「香港の活動に宗教性を求めて」、18%が「集団的性質を求めて」、8%が「娯楽的性質を求めて」、6%が「コミュニケーション的性質を求めて」と答えているのである。(アンケート設問10-17を参照。)つまり、実際には、フィリピン家事労働者の宗教への関わり方(例えば礼拝の回数や、宗教活動)には変化がなくても、その目的には変化が現れていると考えることができる。つまり、宗教活動に対して、「宗教的性質」を求めている68%以外は、「集団的性質」、「娯楽的性質」、「コミュニケーション的性質」といった他の要素を求めているのである。これは、異郷に暮らすフィリピン家事労働者が、宗教活動に対して純粋の宗教だけではない、他のもの(人とかかわり)を求める心理を反映している。聞き取りでも、純粋な宗教性以外のものを求める家事労働者のケースがあった：

メイドは、香港では、礼拝時に、同国出身者と知り合うことを楽しみにしたり、おしゃれをして教会の活動に参加しているようです。教会で、友

人たちと記念撮影をしたりして、教会での礼拝や活動はかなり楽しんでいるようなことを言っていました。(N氏)

小ヶ谷によると、移住家事労働支援 NGO は、その多くが教会を活動拠点として、カウンセリング、雇用主とのトラブルに関する法律のアドバイス、裁判時の通訳、シェルターの提供、さらには広東語クラスやその他のレクリエーション活動などの様々なサービスを行なっている。そして、いずれも、家事労働者と同じ国籍のスタッフや、家事労働者によるボランティアを擁し、サービスの提供に当たっている。例えば、1985年から、コミュニティ開発プログラムの一環として、フィリピン人向けにサービスを行なってきたカリタス香港(Caritas-Hong Kong Asian Migrant Workers and the Filipino Social Services project)では、香港の移民法や労働法などのトレーニングを受けたフィリピン家事労働者が、ボランティアの相談員となっている¹¹⁾。

以上の NGO の活動を含んだ宗教活動が実施される教会に集うメンバーのほとんどが、フィリピン人である。フィリピン家事労働者は、宗教活動を通して、同国人や同郷人とかかわり、故郷とのネットワークを構築しようとしているのである。異郷に暮らすフィリピン家事労働者が、上章で述べたような「友人たちとの交流や、各種活動を通して、故郷へのつながりを保つ」ことと同様に、宗教活動に対しても、そういった目的で参加するようになり、香港に来る前と後とで、宗教活動に対する参加意義に変容が見られるようになっているのである。

5. フィリピン家事労働者の余暇における飲食状況

これまで、フィリピン家事労働者の余暇における諸活動を通して、彼女たちの故郷との関わり方や、アイデンティティについての考察をおこなってきた。本章では、余暇とかかわりの深い分野である「飲食」に着目し、フィリピン家事労働者が、休暇時に行う飲食活動についての考察をおこなう。飲食は文化の一種であるということができる。世界の多くの地域では、チャイナタウンには必ず中華料理店が存在するように、移民たちによるコミュニティには必ず、移民の出身地の料理を提供するレストランがある。移民たちは、故郷の料理を食べることによって、故郷とのつながりを保ち、異郷に暮らすことによって起こる強い郷愁

の念やホームシックを和らげようとしている。よって、故郷の料理は、移民の地域アイデンティティとも大きく関係しているといえるだろう。

香港で就労するフィリピン人家事労働者の多くは、香港人（或いは香港に居住する外国人）の住宅に住み込んでいる場合が多いため、同郷人とともにコミュニティを形成しているわけではない。よって、彼女たちが居住する地域に、フィリピン料理レストランがある場合は極めて少なく、いつでも近所のレストランで故郷の料理を口にするにはできない。雇用主の家で、主に調理する料理は、雇用主によって決められた中華料理を主とするメニューである場合がほとんどであり、自らのために、故郷の料理を調理する機会は少なく、家事に追われてそういった時間も取りにくい。フィリピン料理好きの雇用主や、フィリピン料理を調理する機会を与えてくれる雇用主のもとで労働できるケースは稀であろう。このような状況下において、彼女たちは休暇時に、特別に故郷の味を求める傾向がある。

アンケート調査の結果では、回答者のうち、85%が休暇時に「フィリピン料理を食べる」と答えている。それらの大部分は自らが調理し、持参したものである。(アンケート設問 18, 19, 20 を参照。) また、フィリピン人家事労働者は同国出身の家事労働者（香港に来る以前或いは香港に来てからできた友人や知人）とともに、適当な場所を見つけて、それぞれが持参した自家製のフィリピン料理を共有する。(アンケート設問 21, 22 を参照。) 日曜日を主とする休暇になると、フィリピン人家事労働者のグループが、公園などで場所を陣取り、それぞれが持参したフィリピン料理を囲みながら、雑談に花を咲かせる風景を見ることが出来る。このような「会食」を通して、フィリピン人家事労働者は、同郷人とコミュニケーションをとった



自家製のフィリピン菓子 (材料は砂糖やナッツ類など)

り、情報を交換したり、友情を確認しあったりしているのである。フィリピン人たちが休暇時に集う場所に、フィリピン料理のレストランがないわけではないが、フィリピン料理店は数が少なく、地元中華料理店やファーストフードなどと比較すると、値段もかなり割高になるため、このような家事労働者にはさほど利用されていない。また、フィリピン料理のレストランでは、長居もできず、ましてや、大きな声で雑談したり、新聞を広げて情報交換をしたりするには、適切な場所とはいえないことも敬遠される理由だろう。聞き取りの中から、「会食」にまつわるものを紹介する：

メイドは、いつも、休みの時に、フィリピンの食材専門店で、調味料とか食材を買い込んで帰ってきます。平日の昼間、時間がある時に、それらを使って自分で調理したりしてありますが、休暇時にも朝早くから起きて、それらを使って何か作っています。(雇用主 M 氏)

メイドが、一時帰国した時に、スナック類や調味料を大量に買い込んで、「休みに友達と一緒に食べる」と嬉しそうに言っていたことがありました。香港のフィリピン食材店で売っているものと、若干味が違うそうで、本場の物を友達にも食べさせたいということでした。(雇用主 S 氏)

彼女たちは、自家製のフィリピン料理を食べることによって、強い郷愁の念やホームシックを回避することができるだけでなく、この「会食」を通して、同郷の友人や知人とのネットワークを再構築し、お互いの信頼関係を築いているのである。こういった行為は、同時に、出身地への地域アイデンティティや、フィリピン人としてのアイデンティティを強める要因になっている。

また、フィリピン人家事労働者にとって、香港は、仕事をして収入を得る場所ではなく、一時的な「仮の宿」に過ぎない。「海外に移民して、その地に根を下ろして財をなす」といった考えを持っているものは多くなく、一時的な収入を得れば、或いは一時的に家計を助けることができれば、その後は帰国し、自分の家族とともに自分の家に住むというのが、フィリピン人家事労働者の一般的な考え方である。海外で発展するために、異国の地に移民することに違和感を持たない香港人と異なり、フィリピン人は、つねに故郷が自分の居場所であり、基本的な生活ができる収入があ

れば、その他の要求はさほど高くない¹²⁾。フィリピン人にとって、つまるところ、自分の本来いるべき場はフィリピンなのであり、こういった価値観が、非常に強い地域および民族アイデンティティの維持に繋がっているのである¹³⁾。フィリピン人は、このように、異郷の地にいながらも、休暇になると、故郷の料理を食べて懐かしむだけではなく、その「会食」を通して、同郷人との交流を深め、故郷へのアイデンティティ、フィリピン人としてのアイデンティティを再確立しているのである。この「会食」には、上述のフィリピン人の価値観が多少なりとも反映されているといってもいいだろう¹⁴⁾。

6. おわりに

本研究では、フィリピン人家事労働者の「故郷との繋がり方」、「余暇活動」、「宗教活動」、「余暇における飲食状況」について考察をおこなってきた。異郷の地で働くフィリピン人家事労働者は、常に、できるだけ故郷の家族、友人、知人と連絡を取り、情報を交換することに努めており、故郷との関係を確実に保つために、「手紙よりも電話」というように、多少金銭がかかることも厭わない。彼女たちのこういった行動には、自国や故郷への強いアイデンティティが反映されている。また、フィリピン人家事労働者は、休暇時を利用して、同郷の友人や知人との集い、バーベキューやダンスなどの娯楽性イベント、教会活動を通して娯楽や集会、自家製のフィリピン料理を持参しての「会食」などといった各種活動に積極的に参加していることが確認できたが、これらの諸活動への参加目的は、決して娯楽のためだけではない。こういった諸活動は、フィリピン人家事労働者が、自国へのつながりを深め、香港で労働する同郷人とのつながりを強いものにし、自国や地域のアイデンティティ、フィリピン人としてのアイデンティティを更に確立させていくための手段であるといえるのである。香港で労働するフィリピン人家事労働者にとって、休暇時における各種活動は、不可欠な事項であり、自らのアイデンティティの存続にもかかわる非常に重要な存在なのである。

注

- 1) 小ヶ谷千穂「国際労働移動とジェンダー—アジアにおける移住家事労働者の組織活動をめぐって—」、梶田孝道編著『講座・社会変動 第7巻 国際化とアイデンティティ』、ミネルヴァ書房、2001年、130頁。
- 2) 香港政府統計處『人口普查2001 主題性報告 少数

族裔人士』、政府統計處、2002年、16頁。

- 3) 本研究で用いたアンケート調査は、2004年度、香港中文大学歴史学科にて、筆者が担当する「文化史専門研究：近代東南亜の族群與身分 (Topic in Cultural History: Ethnicity and Identity in Modern Southeast Asia)」を履修していた5名の学生グループ(代表者：陳文)によって、2000年10月に、筆者の指導の下で実施されたものである。調査対象者であるフィリピン人家事労働者への調査地は、セントラル地区の教会、エンプレス広場一帯である。
- 4) 2005年4月～8月の間に、フィリピン人家事労働者を雇用している4人(N氏、M氏、S氏、L氏)への聞き取りを実施した。
- 5) 「香港菲傭的喜怒哀楽」、『亞洲週刊』、亞洲週刊有限公司、2003年第12期、55-56頁。
- 6) 康樂居偏傭中心有限公司編『百分百醒目偏主：外傭管理實務指南』、經濟日報出版社、1997年、40頁。
- 7) 90年代以降、多くの日本人独身女性が、香港やシンガポールを中心とするアジア各地域で就労する現象が見られるが、彼女たちの中には、日本に対するよりも「香港の活気に魅力を感じる」や「シンガポールの多民族性が面白い」といった居住国に対するあこがれの気持ち強いものが多く、就労後、日本に戻らずに、ずっとそのまま異郷の地に居住していたいという希望を持っているものもや、現地の男性と結婚するケースも目立つ。中には、1年以上、日本の家族や友人と一度も連絡をとっていないものさえもいるほどである。両者の対比は、それぞれの持つ背景、海外就労への動機の違いによるものであろう。
- 8) 小ヶ谷によると、労働組合を含めた外国人家事労働者が80年代半ば過ぎから結成されるようになった。中でも1981年からフィリピン人向けに法律相談やシェルター提供などを行っていたMFMW (Mission for Filipino Migrant Workers) と連携して、1984年に結成されたUni-Fil HK (United Filipino in Hong Kong)、および移住労働者の組織化とアドボカシーを推進するAMC (Asian Migrant Centre) のコーディネートによる移住家事労働者の労働組合やエスニック別グループは、香港における自由家事労働者組織の中でも最もアクティブにキャンペーン活動などを行なっている団体である。(小ヶ谷千穂「国際労働移動とジェンダー—アジアにおける移住家事労働者の組織活動をめぐって—」、梶田孝道編著『講座・社会変動 第7巻 国際化とアイデンティティ』、ミネルヴァ書房、2001年、132-133頁。)
- 9) 筆者は、2000年に、シンガポールで労働する単身日本人女性を対象に、アンケートおよび聞き取りを中心とした調査を行ったが、アンケート回答者の半数以上が、休日は「日本人以外と過ごす」、或いは「日本人と過ごしたりすることもあれば、外国人や現地人と過ごしたりすることもある」と答えており、「日本人のみと過ごす」というのはごく少数であった。その主な理由は「日本人だけと交流を持つのは、海外に出てきた意味がない」、「海外にいるからには、異文化に接したい」、「シンガポールが好きなので、できるだけシンガ

ボールの中に身を置きたい」,「日本が好きじゃないので、日本人と関わる必要がない」などであったが、これらの理由も、彼女たちの海外就労の動機や就労状況の相違と大きく関係していると考えられる。

- 10) 「5」が最大の差異を示しており、「1」が最小の差異である。回答者の41人中、31人が「4」以上を選択している。
- 11) 小ヶ谷千穂「国際労働移動とジェンダー—アジアにおける移住家事労働者の組織活動をめぐって—」, 梶田孝道編著『講座・社会変動 第7巻 国際化とアイデンティティ』, ミネルヴァ書房, 2001年, 132頁。
- 12) 小ヶ谷は「移住労働によって得られた貯蓄を帰国後に個人或いは集団ビジネスに投資し、移住労働のオルタナティブを形成する、という出身社会への再統合を視野に入れた移動形態もある」と指摘している。(小ヶ谷千穂「移住女性労働の展開と課題」, 『Sociology Today 11号』, お茶の水社会学研究会, 2000年, 104-105頁。)
- 13) 「請不要叫我賓妹」, 周淑屏, 蘇婉芬, Madeleine 等著『地縁與情縁』, 突破出版社, 2000年。
- 14) 筆者が実施した、シンガポールで労働する単身日本人女性への聞き取りでは、休暇時の食事については「いろいろな地元の料理を食べる」という意見が多かった。そして、その次に「日本料理を食べる」が続いた。日本人女性たちが休暇時に友人や知人と過ごす場合の食事は、ほとんどがレストランの料理であり、自分で調理することは稀であった。ましてや、ピクニックなどの特別な機会を除いて、公園などに場所を陣取って、「会食」することは皆無であった。こういった諸結果の相違も、両者の背景、両者を取り巻く労働状況、両者が海外に居住することになった動機などの差異によるものであろう。

参考文献

小ヶ谷千穂「国際労働移動とジェンダー—アジアにおける移住家事労働者の組織活動をめぐって—」, 梶田孝道編著『講座・社会変動 第7巻 国際化とアイデンティティ』, ミネルヴァ書房, 2001年。

小ヶ谷千穂「移住女性労働の展開と課題」, 『Sociology Today 11号』, お茶の水社会学研究会, 2000年。

香港政府統計處『人口普查2001 主題性報告 少数民族裔人士』, 政府統計處, 2002年。

「香港菲傭的喜怒哀樂」, 『亞洲週聞』, 亞洲週聞有限公司, 2003年第12期。

康樂居偏傭中心有限公司編『百分百醒目偏主：外傭管理實務指南』, 經濟日報出版社, 1997年。

「請不要叫我賓妹」, 周淑屏, 蘇婉芬, Madeleine 等著『地縁與情縁』, 突破出版社, 2000年。

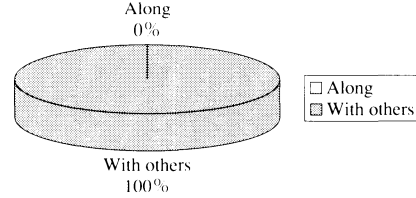
参考資料

第1部：総合的な調査結果 (回答数：65部)

余暇活動

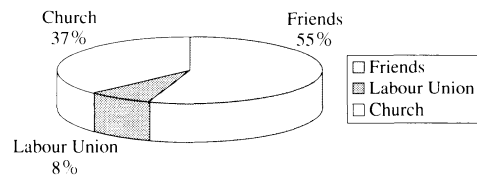
Q. 1

How do they spare their holiday?



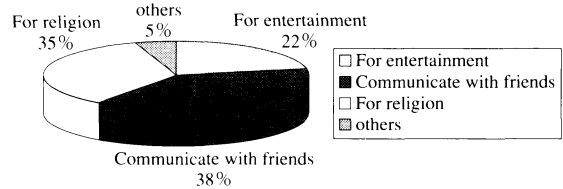
Q. 2

Who organize their holiday gatherings?



Q. 3

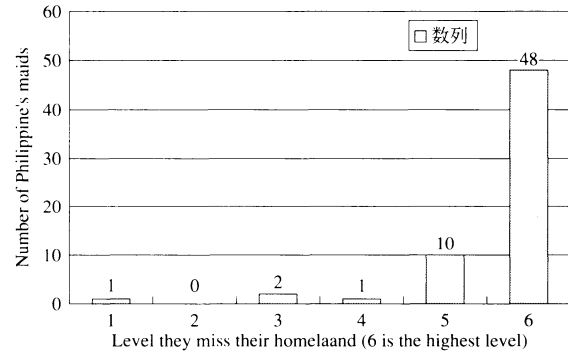
The nature of the activities



故郷との関わり方

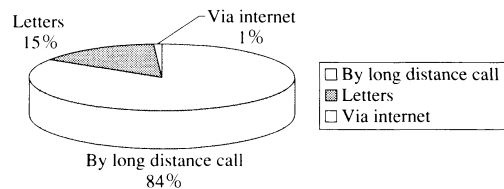
Q. 4

How do they miss their homeland?



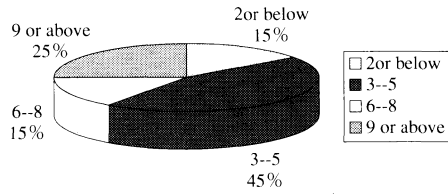
Q. 5

How do they contact their relatives in homeland during holidays?



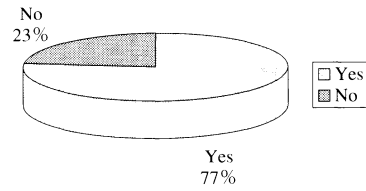
Q. 6

Frequency they contact their relatives per month



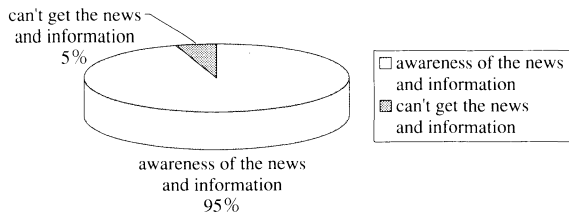
Q. 12

Do they maintain go to ecclesiolatry on every Sunday in HK



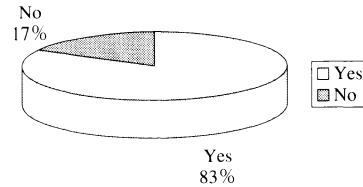
Q. 7

Awariness of the news and information in HK



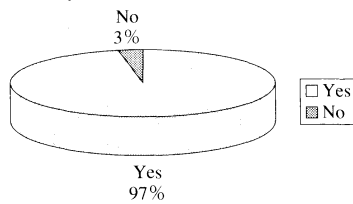
Q. 13

Did they participate in church activities in the Philippines?



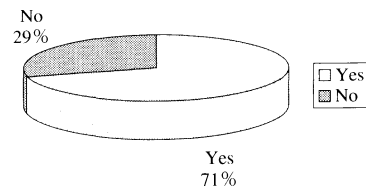
Q. 8

Do they send money or other things to their homeland?



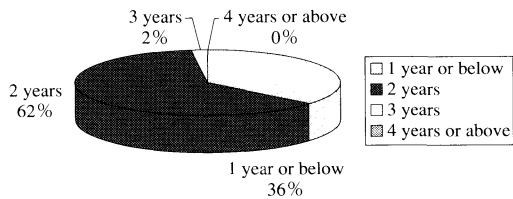
Q. 14

Do they participate in church activities as frequently and devotedly as you were in the Philippines?



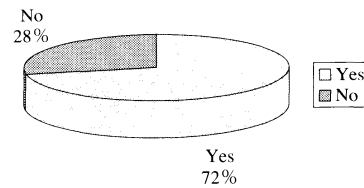
Q. 9

How often would they go back to their homeland?



Q. 15

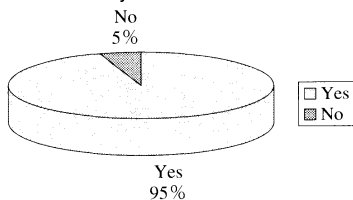
Did the aims, nature or meaning of Sunday religious activities alter as compared with the religious activities in the Philippines?



休日における宗教活動

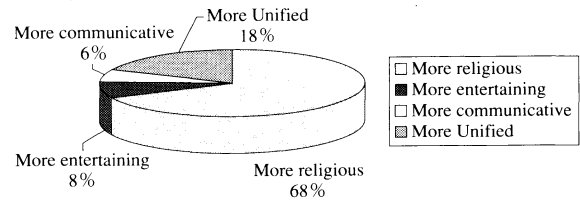
Q. 10

Are they Christian?



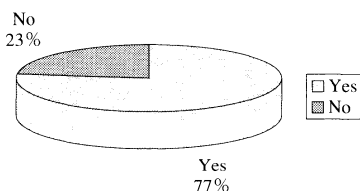
Q. 16

If yes, what is the possible difference?



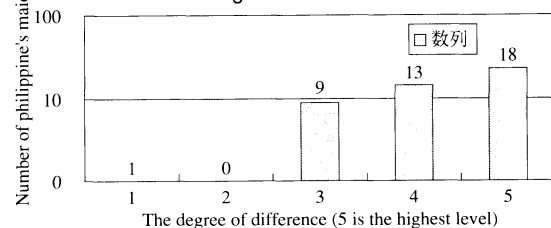
Q. 11

Did they regularly go to ecclesiolatry on every Sunday in the Philippines?



Q. 17

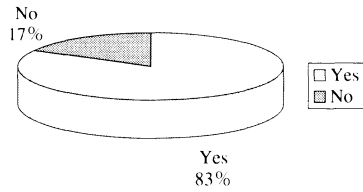
Degree of the difference



休日における飲食

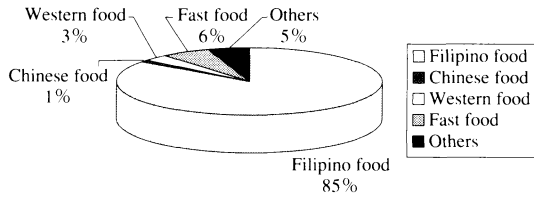
Q. 18

Is the food they eat in holiday different from that they eat in working day?



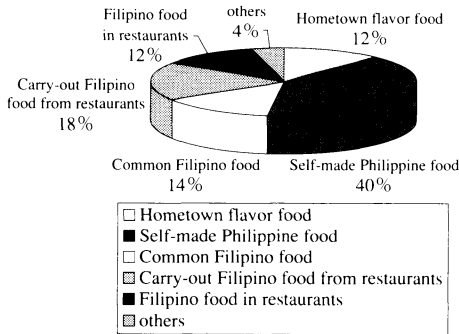
Q. 19

What cuisine do they usually eat in holiday?



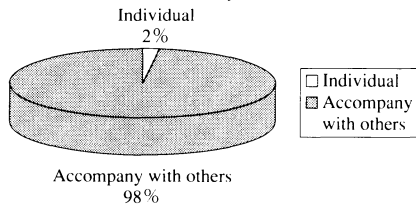
Q. 20

What kind of Filipino food do they eat in holiday?



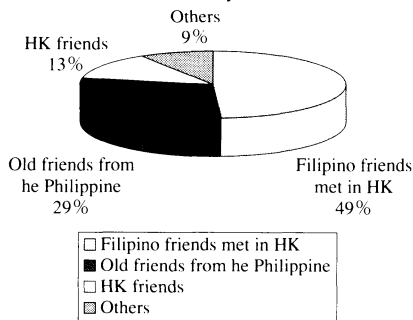
Q. 21

Do they eat individually or accompany with others in holiday?



Q. 22

Whom do they eat with?



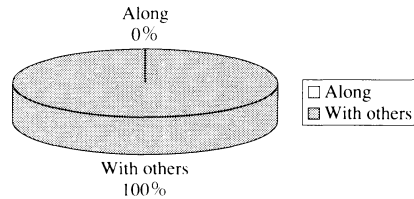
第 2 部：「香港での労働経験が 5 年以下」の調査結果

(回答数：29 部)

余暇活動

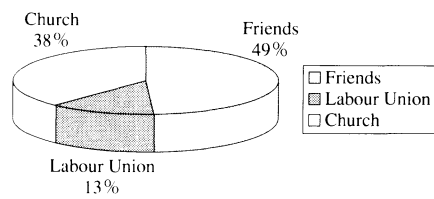
Q. 1

How do they spare their holiday?



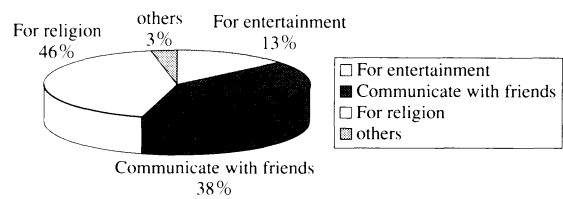
Q. 2

Who organize their holiday gatherings?



Q. 3

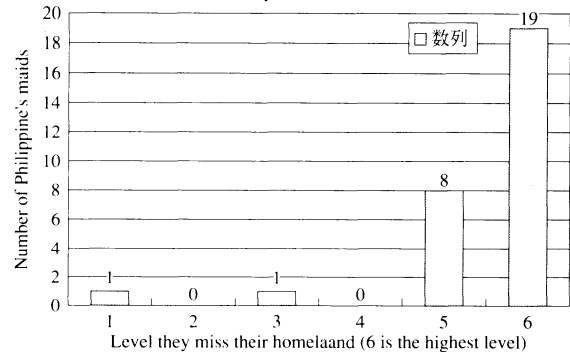
The nature of the activities



故郷との関わり方

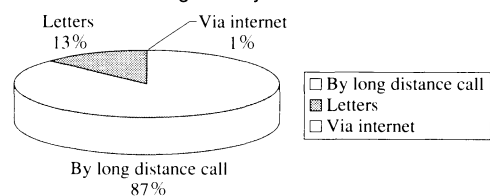
Q. 4

How do they miss their homeland?



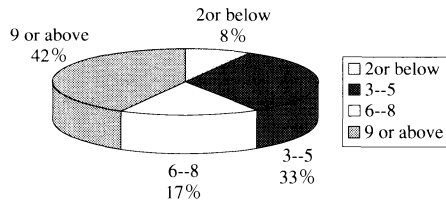
Q. 5

How do they contact their relatives in homeland during holidays?



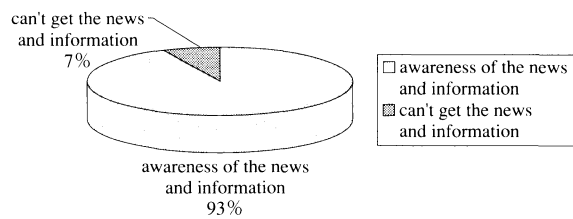
Q. 6

Frequency they contact their relatives per month



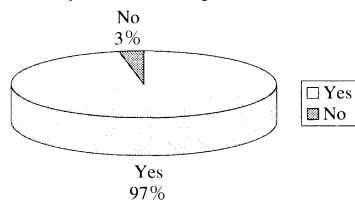
Q. 7

Awareness of the news and information in HK



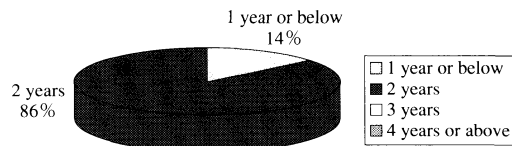
Q. 8

Do they send money or other things to their homeland?



Q. 9

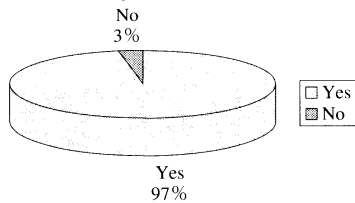
How often would they go back to their homeland?



休日における宗教活動

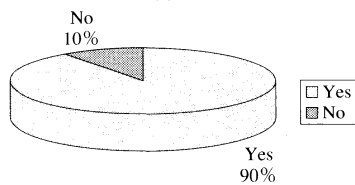
Q. 10

Are they Christian?



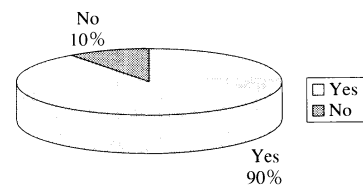
Q. 11

Did they regularly go to ecclesiastical on every Sunday in the Philippines?



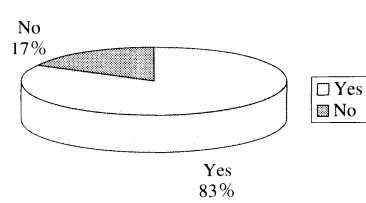
Q. 12

Do they maintain go to ecclesiastical on every Sunday in HK



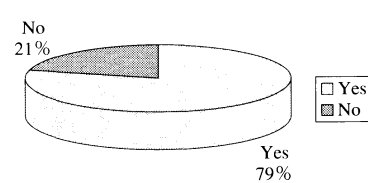
Q. 13

Did they participate in church activities in the Philippines?



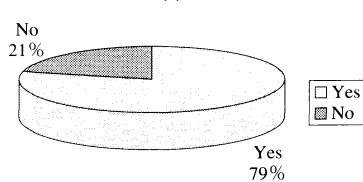
Q. 14

Do they participate in church activities as frequently and devotedly as you were in the Philippines?



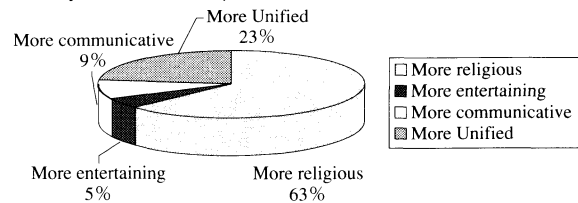
Q. 15

Did the aims, nature or meaning of Sunday religious activities alter as compared with the religious activities in the Philippines?



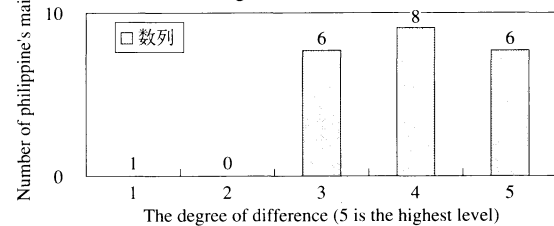
Q. 16

If yes, what is the possible difference?



Q. 17

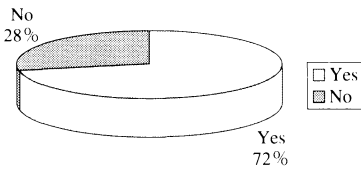
Degree of the difference



休日における飲食

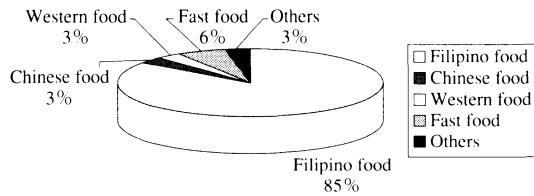
Q. 18

Is the food they eat in holiday different from that they eat in working day?



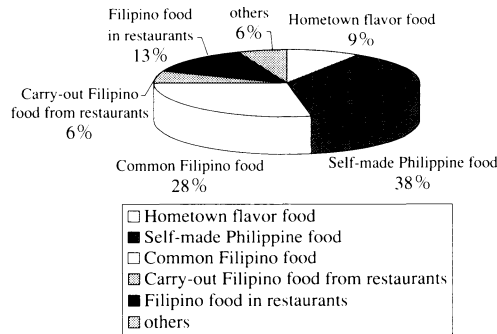
Q. 19

What cuisine do they usually eat in holiday?



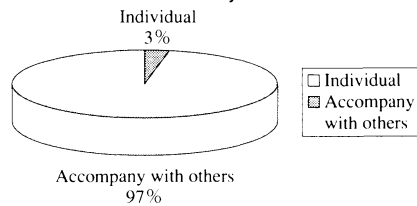
Q. 20

What kind of Filipino food do they eat in holiday?



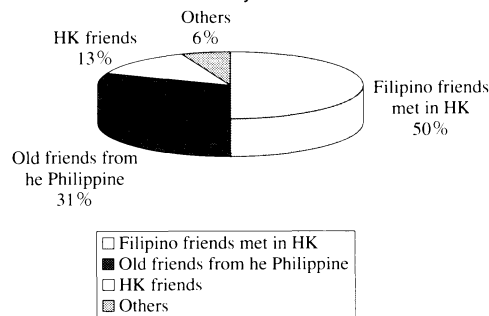
Q. 21

Do they eat individually or accompany with others in holiday?



Q. 22

Whom do they eat with?

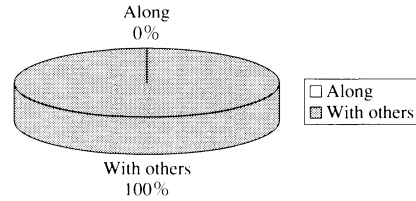


第 3 部：香港での労働経験が 6~10 年 (回答数：16)

余暇活動

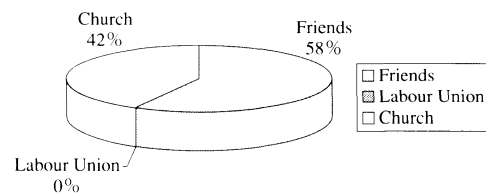
Q. 1

How do they spare their holiday?



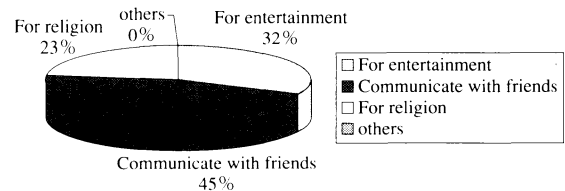
Q. 2

Who organize their holiday gatherings?



Q. 3

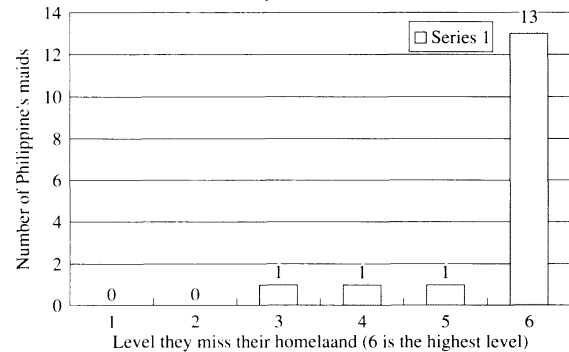
The nature of the activities



故郷との関わり方

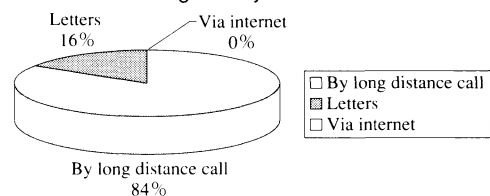
Q. 4

How do they miss their homeland?



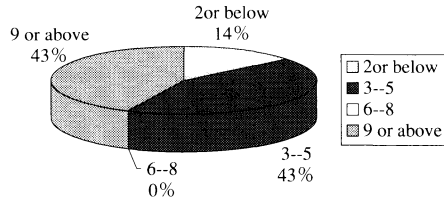
Q. 5

How do they contact their relatives in homeland during holidays?



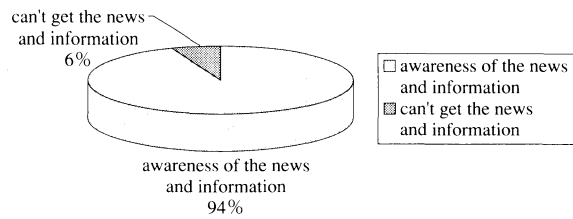
Q. 6

Frequency they contact their relatives per month



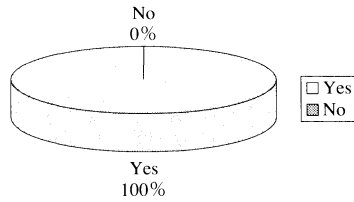
Q. 7

Awareness of the news and information in HK



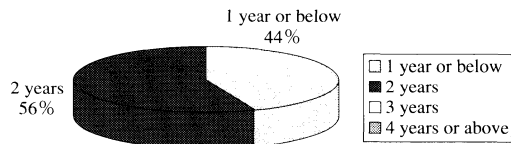
Q. 8

Do they send money or other things to their homeland?



Q. 9

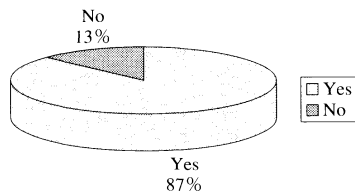
How often would they go back to their homeland?



休日における宗教活動

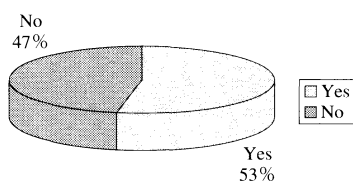
Q. 10

Are they Christian?



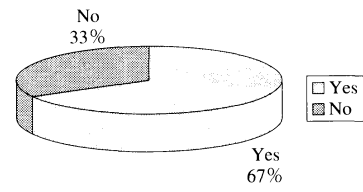
Q. 11

Did they regularly go to ecclesiastical on every Sunday in the Philippines?



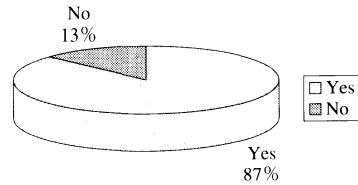
Q. 12

Do they maintain go to ecclesiastical on every Sunday in HK



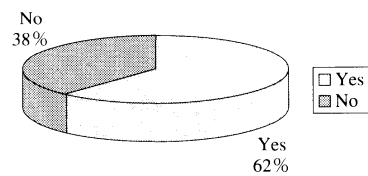
Q. 13

Did they participate in church activities in the Philippines?



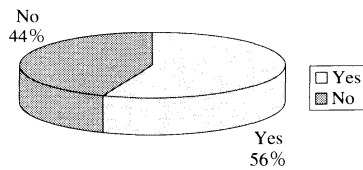
Q. 14

Do they participate in church activities as frequently and devotedly as you were in the Philippines?



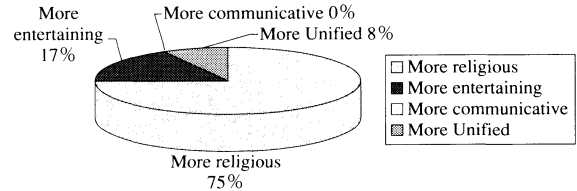
Q. 15

Did the aims, nature or meaning of Sunday religious activities alter as compared with the religious activities in the Philippines?



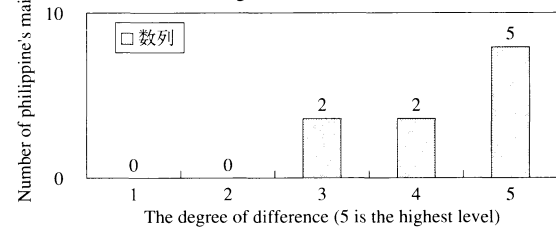
Q. 16

If yes, what is the possible difference?



Q. 17

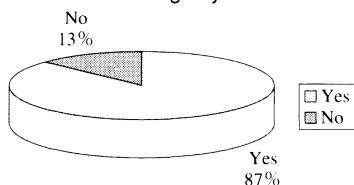
Degree of the difference



休日における飲食

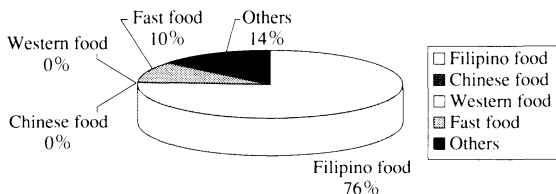
Q. 18

Is the food they eat in holiday different from that they eat in working day?



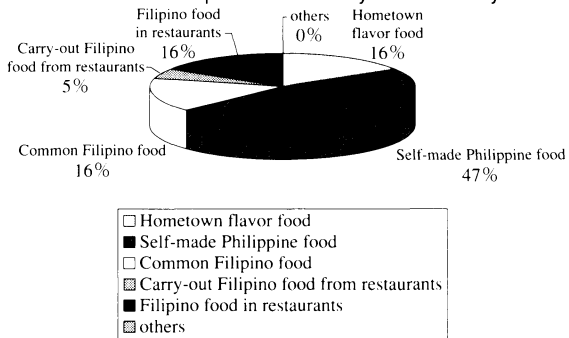
Q. 19

What cuisine do they usually eat in holiday?



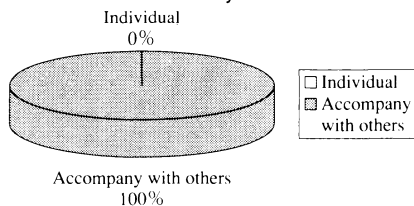
Q. 20

What kind of Filipino food do they eat in holiday?



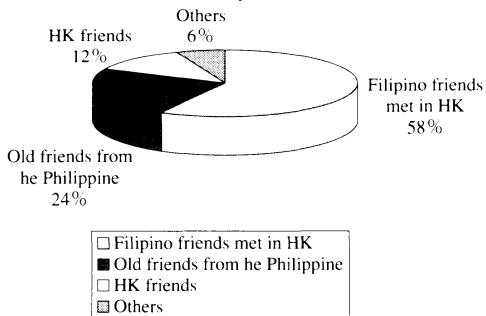
Q. 21

Do they eat individually or accompany with others in holiday?



Q. 22

Whom do they eat with?

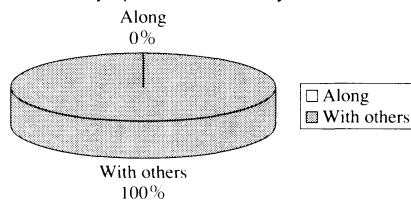


第 4 部：香港での労働経験が 10 年以上 (回答数：20 部)

余暇活動

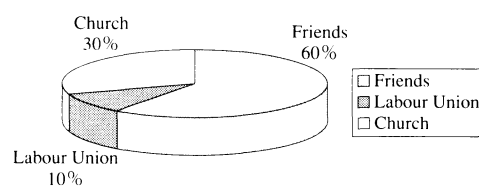
Q. 1

How do they spare their holiday?



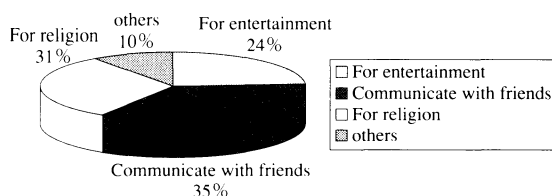
Q. 2

Who organize their holiday gatherings?



Q. 3

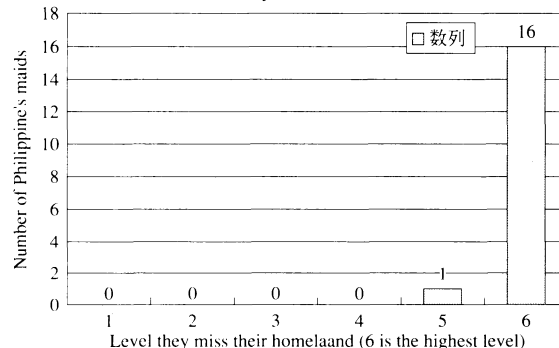
The nature of the activities



故郷との関わり方

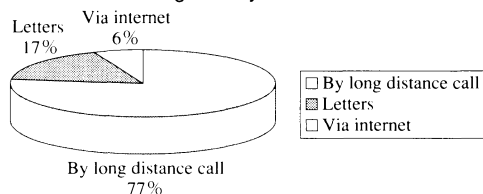
Q. 4

How do they miss their homeland?



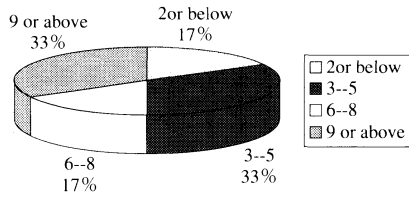
Q. 5

How do they contact their relatives in homeland during holidays?



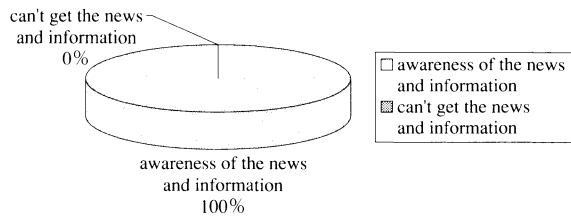
Q. 6

Frequency they contact their relatives per month



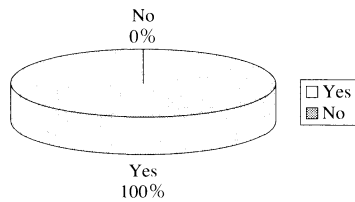
Q. 7

Awareness of the news and information in HK



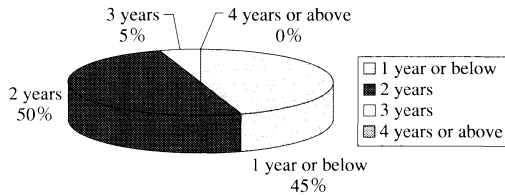
Q. 8

Do they send money or other things to their homeland?



Q. 9

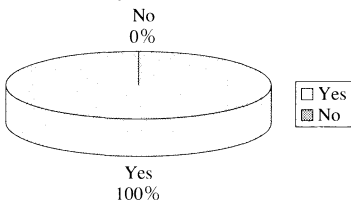
How often would they go back to their homeland?



休日における宗教活動

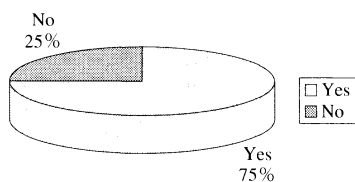
Q. 10

Are they Christian?



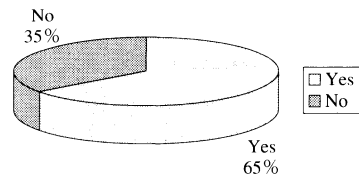
Q. 11

Did they regularly go to ecclesiastical on every Sunday in the Philippines?



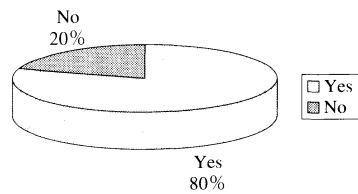
Q. 12

Do they maintain go to ecclesiastical on every Sunday in HK



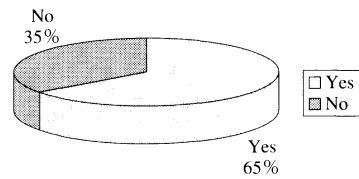
Q. 13

Did they participate in church activities in the Philippines?



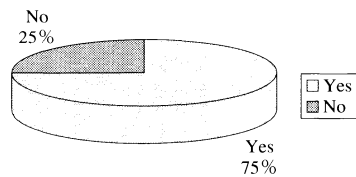
Q. 14

Do they participate in church activities as frequently and devotedly as you were in the Philippines?



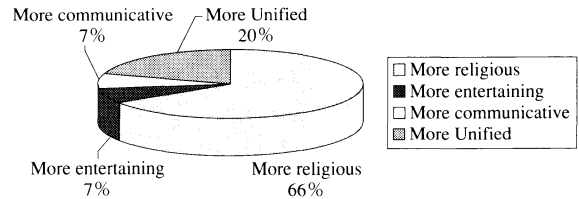
Q. 15

Did the aims, nature or meaning of Sunday religious activities alter as compared with the religious activities in the Philippines?



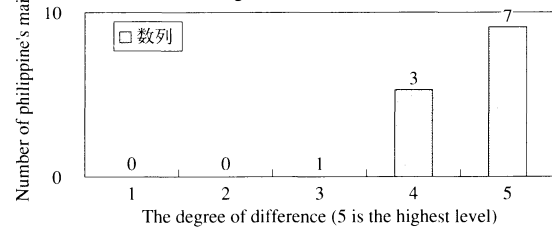
Q. 16

If yes, what is the possible difference?



Q. 17

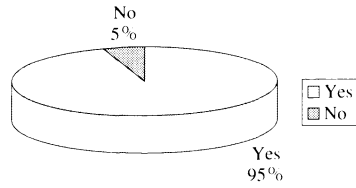
Degree of the difference



休日における飲食

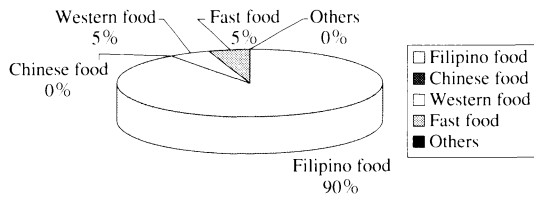
Q. 18

Is the food they eat in holiday different from that they eat in working day?



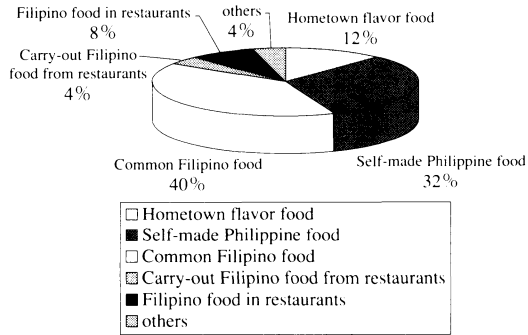
Q. 19

What cuisine do they usually eat in holiday?



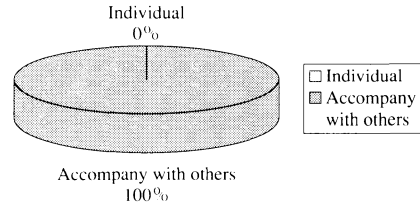
Q. 20

What kind of Filipino food do they eat in holiday?



Q. 21

Do they eat individually or accompany with others in holiday?



Q. 22

Whom do they eat with?

